

「マタイ 18章」

イントロ:

1. 文脈を確認する。
 - (1) イエスの公生涯 律法の時代
 - (2) イエスの十字架以降 恵みの時代
 - (3) 弟子たちは、天の御国がすぐに来ると思い込んでいる。
2. イエスの教え
 - (1) 恵みの時代、つまり教会時代を想定した教え。
 - (2) 3つのテーマ
 - ①プライドの問題
 - ②罪を犯した兄弟をどう扱うかという問題
 - ③赦しの問題
3. 信仰の成長
 - (1) 教理を学ぶこと。知識の量を増やす。
 - (2) 心の問題。
 - (3) 人間関係の問題。
4. きょうの箇所は、まさしく教会時代に生きている私たちへの教え。
 - (1) クリスマン生活の醍醐味を満喫するために必要。
 - (2) クリスマンとして成長していない人に助言するために必要。

教会時代に生きるクリスマンへの3つの教訓

I. プライドの問題

1. 宮の納入金(マタイ 17:24~27)
 - (1) 出エジプト 30:11~16 幕屋(神殿)の維持のため毎年半シケルを納入する。
 - (2) この規定は、口伝律法ではなく、モーセの律法である。これが大切。
 - (3) 納入は、過越の祭りの時に神殿で。あるいは、地方ではそのひと月前に納める。
 - (4) この時、イエスはおおよそ半年納入遅れになっていた。時期は、仮庵の祭りの頃。
 - (5) イエスの論理
 - ①イエスは神殿の主であるので、納める必要はない。
 - ②弟子たちは神の子どもなので、納める必要はない。
 - ③しかし、(モーセの律法に対する)つまずきを与えないために納める。
 - (6) ペテロが釣った魚から銀貨
 - ①スタテル一枚。1シケル。2人分の支払いが可能となる。
 - ②ペテロの心に、自分だけがという特権意識が生まれる。

2. 弟子たちの質問

(1) 「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか」

(2) この質問をした動機

①特権意識の芽生え

* 変貌山に登ったのは3人

* 宮の納付金に関する教えを受けたのはペテロだけ

②天の御国の到来が近い。

* 仮庵の祭りの預言的意味と天の御国の成就

* その前に、過越の祭りが来なければならない。

3. イエスの答え

(1) 子どもを使った視聴覚教育

①子どもは自分の弱さを知っていて、父親に全幅の信頼を置いている。

②父親に信頼を置いている家庭では、家族の間に比較や優越感はない。

③天の御国では、自分を低くする者が一番偉い。

④神の恵みを受け入れた人は、無価値な子どもを受け入れるようになる。

(2) イエスの警告

①子どもたちにつまずきを与えるのは、大きな罪である。

②そのような者は、大きな石臼を首にかけられ、湖で溺死するほうがましだ。

③この世の基準と、神の子たちに求められる基準とは異なる。

* 問題の根源に迫り、それを取り除くべきである。

* 未信者は、「永遠の火に投げ入れられる」。

* 信者は、地上生涯では矯正のために神の訓練を受ける。

* 矯正されない場合は、来るべき世で受けるはずの祝福を失う。

④子どもたちに対する神の愛

* 1匹の羊を探す羊飼いです。

* 守護天使が付いている(ヘブル1:14 参照)。

II. 罪を犯した兄弟をどう扱うかという問題

1. 教会という言葉

(1) マタイ16章で初めて出てきた言葉

(2) マタイ16:18は普遍的教会、マタイ18:17は地域教会

①普遍的教会とは、使徒2章から携挙までにイエスを信じる人の総体。

②地域教会とは、時間的、地理的に制約がある。未信者も含んでいる。

2. 4つのステップ

- (1) 傷つけられた人が、罪を犯した人と対面する段階。
 - ①その前に他人に言うと、イエスの教えに反している。
 - ②聞き入れられたなら、兄弟を得たことになる。
- (2) 2人か3人の証人を連れて行って悔い改めを迫る。
- (3) それでもだめなら、地域教会に事実を告げる。
- (4) それさえも拒否したなら、「異邦人か取税人のように扱う」
 - ①「ふれてはならない」
 - ②教会の交わりから追放する。

3. イエスによる承認

- (1) マタイ18:18は、よく誤解される。
 - ①「つなぐ」と「解く」は、ラビ用語
 - * つなぐとは、禁止する、有罪を宣言するという意味。
 - * 解くとは、許可する、無罪を宣言するという意味。
 - ②これは使徒たちだけに与えられた権威。
- (2) マタイ18:19～20も、よく誤解される。
 - ①19節の「ふたり」とは、証人のこと。
 - * 複数の祈りは力があるが、ここではそれが強調点ではない。
 - ②20節の「ふたりでも三人でも」もまた証人のこと。
 - * 教会の定義ではない。教会は権威という秩序のある組織。
 - * 4つのステップをイエスが承認しているということ。
- (3) 以上のことを、愛を込めて行う。
 - ①イエスがその中におられる。

III. 赦しの問題

1. ペテロの質問

- (1) 7度までというのは寛大な数字。
- (2) パリサイ人の教えでは、3度まで。

2. イエスの答え

- (1) 7の70倍:無限に赦せ。
 - ①完全数
 - ②数えられない。
- (2) 赦しとは、内面に起こること。

3. イエスのたとえ話

- (1) 1万タラントの借金が免除された人
 - ①1タラントは6千デナリ。
 - ②1万タラントは、16万年分の収入。
- (2) 100デナリの借金を赦せない。
- (3) 対比は、60万対1である。
- (4) 多額と小額が対比されている。

4. たとえ話の教訓

- (1) 神から多く赦された者は、赦しの心を示すべきである。
- (2) 天の父は憐れみ深いのだから、私たちはその姿を真似るべきである。
- (3) 兄弟たちを赦さないなら、神からの赦しを受けることができない。
 - ①永遠のいのちに関わる赦しではない。
 - ②父なる神との断絶のこと。
 - ③クリスチャン生活に障害が生じる。

結論

1. プライドの問題を処理する。
 - (1) 山から下ったイエス
 - (2) 宮の納入金を納めたイエス
 - (3) 十字架に向かって進むイエス
2. 罪を犯した兄弟への対応を確立する。
 - (1) 4つのステップ
 - (2) 最初のステップが最難関
 - (3) 愛を込めて行う。
3. 赦しの心を養う。
 - (1) イエスを信じた人は、救われている。
 - (2) しかし、クリスチャン生活に障害が生じている。
 - (3) 自分がどれほど赦されているかを考える。